
THE GREAT BATTLE OVER DRIVE

幻龍

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

THE GREAT BATTLE OVER DRIVE

【Nコード】

N0603BA

【作者名】

幻龍

【あらすじ】

仮面ライダー・ウルトラマン・ガンダムといった『コンパチヒーロー』が住む『コンパチワールド』が存在する世界、悪しき者達の魔の手が迫りつつある地球の危機を察知したウルトラマンキングは三人の新世代コンパチヒーロー…『世界の破壊者たる仮面の戦士』『仮面ライダーディケイド』『新たな光の戦士』『ウルトラマンゼロ』『運命の名を持つ機動戦士』デスティニーガンダムを地球へ向かわせるのだが…？

第一話・集結、三人のコンパチヒーロー！ - (前書き)

はじめましての皆様ははじめまして、ご存知の皆様はお久しぶりで
す、新年& a m p ;新作投稿を機に名前を幻龍と改めました元・柳
雨です

本作は仮面ライダー・ウルトラマン・ガンダムといった版權や世界
觀、サイズの問題の垣根を越えたゲーム『ザ・グレイトバトル』シ
リーズ復活の吉報に狂喜乱舞した作者が懲りずに新連載として書い
たグレイトバトルの二次創作です、キャラ大崩壊なギャグ的要素全
開ですので閲覧の際にはご注意ください(汗)

第一話・集結、三人のコンパチヒーロー！

・我々、人間が住む地球から遠く離れた宇宙…そこには仮面ライダー・ウルトラマン・ガンダムなどのヒーロー達やその敵である怪人・怪獣・モビルスーツなどのライバル達が暮らしている『コンパチワールド』が存在している。

・これは三人のコンパチワールド出身のヒーロー『コンパチヒーロー』…『「世界の破壊者」たる仮面の戦士』・『若き光（「ZERO」）の戦士』・『「運命」の名を持つ機動戦士』の地球を舞台にした、新たな戦いの物語である…。

・宇宙に数多あるコンパチワールドの一つがあるスペースコロニー、ここを治めるウルトラマンキングの城にて…。

「よく来てくれた、三人とも。」

・玉座に座るマントを羽織った威厳あるヒゲのじじい…ではなくウルトラマンキングは彼が呼んだヒーロー…頭に特徴的な二本のカタールを生やした青と赤のボディカラーに鋭い眼をした若き光の戦士・ウルトラマンゼロ、赤き翼と青い機体カラーに眼の下に赤いラインが引かれたモビルスーツ・デスティニーガンダムをまっすぐ見つめるがここでキングはあることに気づいた…。

「…って、おい待たんか！なんで二人しかいないんじゃない？！」

「そっいえば…おいデスティニー、『アイツ』はどうした？」

「あれ？ゼロも知らないのか？オレはてっきりゼロにでも連絡が来てるかと…。」

「…よくよく見たらヒーローは三人ではなくゼロとデスティニーの『二人だけ』だったためキングは盛大にツツコミを入れたが、最後の一人が何故いないのかに関しては二人は全く知らないらしい。」

「…と、その時、どこからともなくバイクのエンジン音が…。」

「どけどけー！死にたくなけりやどいてろー！！」

「「どわあああああああ！？」」

「すると王室のドアがいきなりブチ破られ、バイクに乗った何者かが乱入してきたためゼロとデスティニーは思わず避けてしまった。」

「「へ？ギャアアアアアアアアアア！！」」

「「ウルトラマンキングウウウウウウウ！！？」」

「咄嗟の出来事に呆気にとられたキングはそのまま突っ込んできたバイクに思い切り激突され、そのまま下敷きにされてしまった。」

「よっと…待たせたな、二人とも。」

「グギャ！？」

「「踏んでる！踏んでるから！！」」

・バイクに乗っていた何者が…緑の眼にバーコードを彷彿とさせる様な独特のデザインの仮面、マゼンタや黒を基調としたボディ、十の紋章が描かれたベルトを着けた仮面ライダーディケイド、彼こそがキングが呼んだ三人のヒーローの三人目であった…しかし、遅れてやって来たくせになんら反省の色もなく堂々とした態度、さらには愛機・マシンディケイダーから降りる際にキングの頭を踏みつけるといふ暴挙をやらかしたためゼロとデステイニーからツッコまれた。

「ん？じじい、何呑気に寝てやがるんだ？ム…血が出てる、一体誰がこんなことを…？」

「お前だよ！お前！」

「尾前打代？女か、痴情のもつれて奴か…全く、年甲斐もなく…やるじゃねえか、このじじい。」

「ワザとか！？それとも単にボケてるだけッ！？」

・血の海に沈んでいるキングに今更気づいたディケイドは寝てるのだと思っただがゼロの言うようにこうなっただのはディケイドのせいである…だがディケイドは反省どころか尾前打代おまえ・タヨなる女を架空の犯人としてでっちあげる始末…デステイニーには最早ディケイドがワザとやってんのか天然なのかサッパリ解らなかった。

「おい起きろ、いつまでも寝てたらラチがあかねえだろ、ほらほら…。」

・ディケイドはのびてるキングの胸倉を乱暴に掴んで頬にパシッパシッと平手打ちして叩き、目覚めさせようとしたが中々起きない。

「オラオラ……」

「バシッバシッ」と叩く音が強まるがこれでもまだ起きない…。

「オラオラ！！これでどうだ！？オラオラオラアッ！！ウヒヒヒヒッ！ホレホレホレホレッ！！ヒャーハッハッハッハッ！！」

- 最終的には、平手打ちがガツガツと、派手な殴打と打撃音に変わり、ディケイドは叩くうちに段々悪魔の本性を全開にし、ヒーローらしからぬ外道な笑い声を上げてキングをボコッていく。

「ええかげんにせんかい！ワレエエエエエエエエエエエエエエエ
！！」

「おお、天然SFX。」

「すごい技持ってるのね、キング……」

- 流石目覚めたらしく、キングは自分の口から自分の頭蓋骨と入れ歯を吐き出した上に目玉と舌を螺旋状に回転させながら飛び出たせるといふ漫画チックな超リアクションをしながら激怒した。ディケイドは冷静に、ゼロとデスティニーは呆れたように呟いた。

・キング御乱心の数分後……。

「取り乱してすまなんだ、コホン……早速本題に移ろう、何故お前達

三人を呼んだかという地球にかつてない危機が迫っているからじゃ。」

・キングが三人のヒーローを呼んだ理由、それはコロニーの遙か彼方に位置する惑星・地球になんらかの『危機』が迫ってるとのことらしい…。

「はあ？地球だと？本当だろうな、じじい」

「あの辺境の青くて小さい惑星^{ほし}のことですか？」

「なんだってそんなところに…？」

「じじい言っな！ディケイド…！」

・ディケイド達はスペースコロニー出身のスペースノイドのため地球に危機と言われてもピンとこなかったし、地球に関してはせいぜい青っぽいチンケな惑星程度にしか知識に無かった。

「…と、いうワケでお前達三人には早急、に…。」

・キングは一刻も早く彼らを地球に行かせようとしたが、肝心の三人はというと…。

「食らえディケイド…！」『オーロラレボリューション…！』

「チイツ…やるな！デステイニー…！だがこれで決める…！」『島と大地の怒り』…！」

「クソッ！負けた！！後は任せたぞ、ゼロ！！」

「よっしゃあ！仇は取ってやるから安心しなッ！！」

…途中から三人はキングの話をシカトし、格ゲーに没頭していた…。

「人の話を聞かんかいイイイイイイイイイイイイ！！」

・キングは三人の無礼な態度に大激怒、怒りのオーラ全開で怒号を上げたその瞬間…。

「FINAL - ATTACK - RIDE : DE・DEDE・DECADE！」

「でやあああああああああ！！」

「ぶべっ！？あああああああああああ！！」

「ああ…キングが…。」

・デイケイドはカードを一枚自分のベルトに装填し、電子音と共に跳び上がり、十枚のカード型のビジョンの真ん中を貫く様な形で左脚を突き出しながら突っ込み、キングの顔面に必殺技である『デイメンションキック』を放つと、キングは吐血と共に派手にブツ飛ばされ、窓をブチ破り外へと投げ出され、哀れ…地上へと落下してい

ったのだ。

「あ、あ…おい、ディケイド…これ、マジでキング死んだろ…？ここ、一応20階くらいの高さだぞ…。」

「いや、『人の鼻血を拭け』って言われただろう…鼻血拭くには鼻血を出さないことには不可能だからな…だからキック放ったんだが…。」

「『人の話を聞け』じゃなかったっけ！？それにお前のキックはキックでも全てを破壊するキックだからッ！！殺傷力満載だからッ！！」

・単なる聞き間違いだけでこのようなバイオレンスに至ったディケイドにゼロは青ざめ、デスティニーは絶叫しながら的確なツツコミをしていく…と、ここで王室に向かっていくつも足音が近づいてくる。

「やべえ！近衛兵だッ！！さっきの騒ぎを聞きつけたんだッ！！逃げるぞッ！！」

「ギャー！！逮捕されるウウウウ！！」

「お前ら、早く乗れ！」

・外や城内にいた兵士達が落下したキングに気づき、偉大なるキングをこんな目に逢わせた不届き者を捕らえんとして動き出した模様、三人はマシンドイクイダーに乗り込んで逃走を計った…ヒーローがバイク三人乗り…。

「『どけえ!!』」

「どわッ!？」

「ぐぎゃあああ!!」

「クソッ!逃がすなッ!!あいつらがキングを殺った犯人だッ!!」

・三人は迫る兵士達をかい潜りながら城内を爆走、兵士達はビビッて思わず道を開けてしまったり、運の悪い者は撥ねられたりしていた、近衛隊隊長・ゾフィーは兵士達を引き連れて追い掛けるが…。

「でえいッ!!」

「後ろは任せろッ!!」

「『ぎゃあああああああ!!』」

・ゼロは自分の頭の二本のカッター・ゼロスラッガーを投擲し、デステイニーは大型ビームランチャー・高エネルギー長射程ビーム砲で近づく連中を次々と倒し、まんまと逃亡に成功したのだ。

「おのれ、逃げられたか…。」

・ゾフィーは苦々しく三人の後ろ姿を見ることが出来なかった…。

「まさかキングが殺されるとは…ん?待てよ…キング亡き今、このコロニーの未来を担うべきはこの私では…?イイイヤッフォオオオーッ!!今日から私が新しいキングだッ!!」

（（ええええええええ！？））

・ こともあろうにゾフィーはキングが死んだ（？）ことをいいことに自分が新しいキングなどと興奮気味に宣い始めたため部下達がショックを受けた…どうやらこのコロニーにはロクなコンパチヒーローがいないらしい。

「さあ！みんな！！私について来…。」

「ワシはまだ死んどらあああああん！！」

・ 早速偉そうに部下達に命令を下すゾフィー…だが突如、その背後から全身血まみれのキングが現れ、自らの生存を激しいシャウトでアピールした。

「やだーい！やだーい！キングは死んだんだーい！私が新しいキングなんだーい！！」

「『現実を見るー！！』」

・ 現実を受け入れられないゾフィーは床に仰向けで転がり、駄々っ子ダンスを踊り出したためキングやゾフィーの部下達が盛大にツッコんだという。

・ その頃、三人のコンパチヒーローはというと…。

「オイ！どうするんだよ！もうコロニーに帰れなくなっちゃったぞ

「！」

「下手に戻ったりしたら間違いなくムシヨ行きだな…。」

・その後、うまく逃げおおせた三人は宇宙空港からロケット（しかも飛ぶだけでやっとな安物のポンコツ）を一機強奪し、一応キングからの『地球の危機を救う』という任務のために地球へと飛び、広大なる宇宙をさまよっていた、キングを殺した（と、彼らは思い込んでいる）ため、三人は事実上、国外永久追放状態：ゼロとデステイニーは自分達の現状を今になって嘆いた

「まあまあ、そう自分を責めるな、見ろ…あの夕陽を。」

「「全ての全てがお前のせいだあああああー！ーッ！！」」

・…しかし、全ての元凶であるディケイドはというと反省の色などまるで皆無であり、落ち込む二人を意味不明だが慰めた、無論逆効果であった、そもそも宇宙に夕陽があるわけではない。

「む？見てみる、アレが地球じゃねえか？」

「おお…！！」

「「う、これは…。」」

・今にも殺し合いに発展しそうな雰囲気だったが、ディケイドが何気に発した言葉にゼロとデステイニーは窓から見えた『ソレ』に入っていた。

・蒼く美しく、両手で支えなければ今にも零れ落ちそうな小さな惑

星…その名は地球。

「…あの惑星に危機が迫ってるなんて信じられないな…。」

「ああ…オレ達、コンパチヒーローの力が必要な時が再び来るとは…。」

「フツ…待ってるよ、地球！オレ達が今すぐ行つてやるからな！」

・三人のコンパチヒーローは決意を新たに、不安と希望を胸に秘め、地球へ向かった…。

第一話・集結、三人のコンパチヒーロー！ - (後書き)

イロイロとツツコミどころ満載な第一話…さて、何故にあの組み合わせにしたかというと三人ともどこことなく反抗的なイメージという共通点(そう思うのは作者だけ?)がギャグバトルな作品に役立つかもと思ったからです(オイ!)

ディケイドに至っては今年3月に発売予定である『グレートバトル フルブラスト』に登場するのに何故出した…(汗)理由としては私の初の連載作『仮面ライダーディケイド・クレヨンしんちゃんの世界』の主役ライダーで思い入れがあるからですね、但し…本作のディケイドはあくまでも『仮面ライダーディケイドそのもの』であって『門矢士』ではありませんのでご注意ください…そのせいか外道ぶりが士以上に、どうしてこうなった!

偉大なるウルトラマンキングのまさかの死亡…(生きてるワイ!!)本作のウルトラマンキングはこの先ずつとこんな感じで身体を張ったキャラで愛すべきネタキャラ・ゾフィー隊長はキングの座を狙うアレな人になると思います(やめんか!)

三人のハジケリスト…ではなくコンパチヒーローの運命や如何に? それではまた次回、幻龍でした!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0603ba/>

THE GREAT BATTLE OVER DRIVE

2012年1月1日10時52分発行